

印旛普及だより

第 38 号

〒285-0026 佐倉市鍋木仲田町8-1 TEL:043-483-1124 FAX:043-485-9502
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-inba/inba/mokuji/index.html>
発行：印旛農業事務所改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会



関係機関等と生産者による圃場巡回

印旛郡栄町は、水田面積が約90%を占め、水稲農家が多い地域です。
地域の新たな動きとして、水稲経営に収益性の高い野菜栽培を導入する取組が始まっています。

野菜作りにチャレンジ！ 栄町における高収益野菜栽培の取組

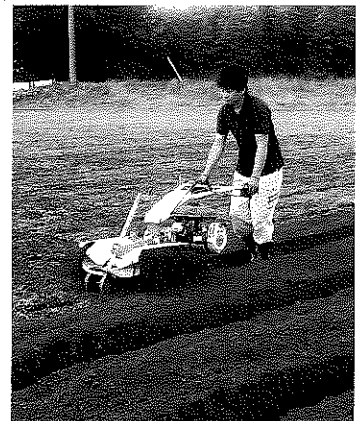
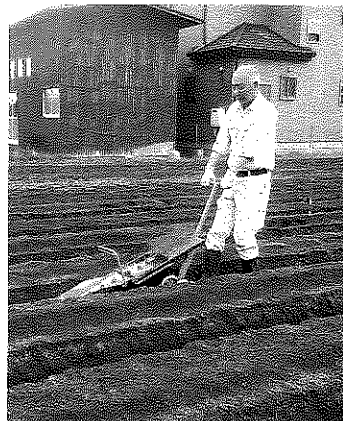
新規に野菜栽培を導入

3名の若手生産者が、協力しながら各自の圃場でネギ栽培に取り組んでいます。

ネギを水田に作付けした圃場では、排水対策を実施し、専門家による指導を受けながら栽培を進めています。

また、基盤整備事業を実施し、集落で野菜生産に取り組もうとする動きもあります。圃場整備後に、収益性の高い野菜の栽培を計画しており、今年からネギやレタスの試験栽培を開始します。

地域の担い手みんなで、品種や必要な機械、労力の検討をしながら、野菜栽培の技術を高めていきます。



講習会で作業をする参加者たち

次世代の担い手育成

「基盤整備事業により圃場が整備されるのであれば、専業農家として就農したい」という後継者も現れ、担い手の掘り起こしが進んでいます。地域の営農が将来にわたり継続できるように、野菜の栽培講習会等の指導を通して、次世代の担い手を育成していきます。

◆特集◆

地域や生産者の「ちばGAP」の取り組み状況について

「ちばGAP」は、千葉県独自のGAP基準です。「ちばGAP」の認証を受けようとする生産者は、個別基準に全て適合する必要があります、農業事務所が農場を評価します。

さらに、東京2020オリンピック・パラリンピック食材調達基準への対応を目的とする生産者について、安全農業推進課が農場評価を行い、適合したものを認証します。

現在、印旛農業事務所管内では、7件「ちばGAP」の認証・評価を取得されており、各地域での取組状況は次の通りです。

○富里市

富里市では、JA富里市が、平成29年度に「ちばGAP」導入に関する打合せ、GAP研修、

巡回指導、GAP推進会議等生産部役員を中心に取組を進めてきました。しかし、部会員全員が一気に取り組むことは難しいため、「ちばGAP」に準じた、JA富里市独自の「JAGAP」を作成、生産者が取り組みやすく進めています。将来的には「JAGAP」から「ちばGAP」、「JGAP」と段階的にGAPを推進していく予定です。

○佐倉市

佐倉市では、新規就農し、レコンを栽培している生産者が、平成31年3月に「ちばGAP」の認証を取得しました。認証に向け、農薬保管庫や作業場の整備・整理に苦労しましたが、資材の在庫管理が徹底され、コストを削減することができました。

また、「ちばGAP」の認証取得により、安心な農産物を求める都内の幼稚園や小学校等への販路の拡大につながりました。

今後は、記録をもとに圃場ごとの栽培管理を徹底し、収量・品質向上に取り組んでいきます。

○栄町・印西市

栄町では、新規就農者が、平成30年度に、消費者の望む『安全安心の提供』と生産時のリスク低減のために、直売ミニトマトで「ちばGAP」認証を取得しました。

また、印西市の本塾ブランド米グループは、生産に係るリスクの低減を目標にGAP研修会を行い、作業場の整備・整理に取り組み始めています。

○成田市

成田市では、法人組織が以前量販店から「グローバルGAP」取得の要請を受け、平成30年度に「ちばGAP」を取得しました。

特に、食品の安全・安心において、農薬の適正な保管使用や作業員自身の健康・衛生管理のため、農薬使用記録簿や農薬在

庫管理台帳等の帳票類の整理を徹底し、更なる経営改善に努めています。

印旛農業事務所管内には、「JGAP」、「アジアGAP」等、国際水準レベルのGAPを取得している生産者もいますが、取得件数は少ないのが現状です。まずは「GAPをする」ことを普及し、地域や生産者が取り組みやすい「ちばGAP」を推進していきます。



GAP認証取得農家から学ぶ

緑肥の作付けで期待できる効果

緑肥の栽培による効果は、有機物投入や根による硬盤破碎等の物理性改善、保肥力の向上、過剰塩類の除去等による化学性の改善、生物性の改善、土壤保全や景観美化等が期待できます。このうち生物性の改善について紹介します。

〈生物性の改善効果〉

◆土壤微生物の多様化

根域に多くの微生物が生息するため生物相が豊かになり、土壤病害の増殖を抑えます。

◆有害線虫や土壤病害の抑制効果

特定の有害線虫や土壤病害を抑制する効果があります。緑肥の種類により効果のある線虫の種類が異なります。(表1)

また、辛味成分を多く含むチヤガラシ「辛神」は、着蕾期に細かく細断し、すき込み、ビニール等で被覆することで、ホウ

レンソウ萎凋病等の病害軽減効果が期待できます。

〈作付けする際の注意点〉

緑肥すき込み直後の作付けは、発芽・生育障害を起こす恐れがあるため、1か月程度の腐熟期間を確保してください。

また、病害虫の密度が高いと、緑肥による有害線虫や土壤病害の抑制効果が十分に得られないことがあります。詳しい利用方法については、改良普及課へお問い合わせください。

表1 線虫対抗植物と対応線虫

植物	商標名	ナツマイ モネコブ	キタ ネコブ	キタ ネグサレ	特徴
マリーゴールド	アフリカントール セントール	○		◎	効果が高めるためには 作付期間を3か月以上 とる。景観美化
クロタラリア・ユンシア	コプトリソウ ネマコロリ	◎		×	窒素固定、景観美化
クロタラリア・スペクタビリス	ネマキング ネマクリーン	◎	○	○	窒素固定、景観美化
ギニアグラス	ナツカゼ ソイルクリーン	◎	◎	○	硬盤破碎、除塩
エンバク	ハイオーツ ニューオーツ			◎	硬盤破碎、土壤保全
ソルゴー	つちたろう ラッキーソルゴー	◎	○		硬盤破碎、除塩 有機物補給

注) ◎：線虫抑制効果が高い、○：線虫抑制効果がある、×：線虫が増加する
空白：知見がないか効果が不安定

栄養診断によるシクラメン肥培管理技術

鉢花の中で最も生産量が多いシクラメンは、印旛地域においても生産が盛んな品目です。

播種から出荷まで約1年かかり、気象条件と生育ステージに合わせた肥培管理が品質を大きく左右しますが、技術の取得には長年の経験や知識を要します。

そこで、群馬県で開発された栄養診断技術を導入する取組が行われています。

栄養診断は、植物体内の硝酸態窒素濃度を計測し、その濃度に応じた肥培管理を行うものです。適正な肥培管理により病害の予防や肥料濃度の過剰障害による苗のロスを減らし、大きさ、出荷時期や作業量を調節できるメリットがあります。

具体的には、7～10月にかけて10～15日に一度、葉柄を採取して搾汁し、簡易測定機(RQ

フレックス)を用い硝酸態窒素濃度を測定します。そして、それぞれの時期における目標値との比較から施肥量を決定します。

この技術を実践した生産者は、「外観やこれまでの施肥量からでは判断できない『植物が吸収した窒素の量』を数値で把握できるため、栄養診断の有用性がある」と評価されています。

近年の異常気象に即時に対応していくためには、生産者自身が測定結果をもとに診断を実施し、肥培管理の方針を立てられるようになることが重要です。



栄養診断のようす

◆印旛地域で活動する女性農業者組織等の紹介◆

若手女性農業者組織

「姫農-Menou-」

『女性農業者のネットワークを広げ、積極的な農業経営参画と地域への情報発信をしよう』という目標のもと、会員14名で活動しています。

農産物の利活用を進める調理実習や農作業機械の安全操作を学ぶ研修、他地域の女性農業者との交流会、プロジェクト活動に取り組んでいます。

同世代の女性農業者の仲間づくりの場であり、新規会員を随時募集しています。



姫農の調理実習のようす

梨の女性農業者が

経営参画を目指し活動

印旛地域は県内でも有数の梨の産地で、栽培に携わる女性農業者が多く、近年は若手の女性農業者も増えていきます。

そこで、積極的な農業経営参画を目指すために必要となる梨の栽培基礎技術を習得するため、年2回の栽培技術講習会を行っていきます。また、先進地事例を視察する研修会やネットワークづくりのための交流会も開催しています。



昨年度は、他地域の梨生産者の女性組織と交流しました

◆若手酪農家の勉強会を開催しています◆

管内の若手や就農後間もない酪農家等を対象に、飼養管理技術や飼料給与技術の向上を目指して勉強会を開催しています。

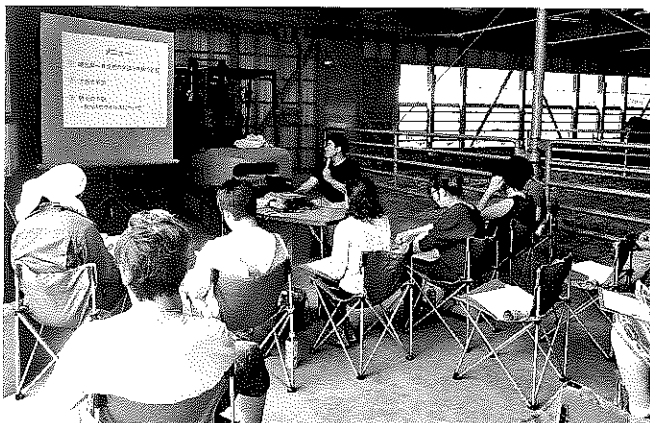
就農後間もない酪農家は、酪農協や市町の生産組織に加入しているものの、印旛地域で交流する機会が少ない状況でした。この勉強会は知識や技術を学ぶだけでなく、酪農家同士の活発な情報交換の場となっています。

平成30年度は、4回の勉強会を開催しました。参加者の牧場の相互訪問や、共済の獣医師を講師に、実際に牛を見ながら繁殖の基礎を学んだり、参加者の要望を取り入れながらテーマを決めて、研修を行いました。

今年度は、3回の勉強会を計画しており、1回目は6月27日に開催し12名が参加しました。哺乳ロボットを導入している管内農家の牧場を視察し、省力

化、経済効果等の経営効果について学びました。今後は、経営管理や管外の先進事例の視察を計画しています。

この勉強会が契機となり、経営改善が図られ、生産性の向上や、ネットワークが広がることで経営の向上につながることを期待して、今後も継続的に勉強会を開催していきます。



牛を見ながら勉強会を行いました